

I コミッショナーとしてマンツーマンになっているか判断する基準

1) マッチアップしているか、マッチアップをしようとしているか

(人＝マンツーマン 場所・エリア＝ゾーン)

- オフェンスのスタート
- カッティングについていくか
- トラップの後
- ペネトレーションに対するヘルプの後

2) オフボールディフェンスのポジショニング・ビジョン（ボールとマークマン）を取ろうとしているか

II 課題から対応への考え方

課題① 長身者が制限区域内にとどまり続ける事象

課題② オフェンスリバウンドの後のマッチアップがない

課題③ マッチアップが不明確な状態から、トラップに行く

課題④ トラップ専門とされている選手がいる

→ マッチアップさせないといけないのでマッチアップを促す。改善なければ旗の対応あり。(2-2-2・7-2-1)

→ 5-2-7 でトラップを行わない＝努力目標としての提示（判定基準 V-①）

→ 最初だけマッチアップして、その後マッチアップしないのは違反（5-3-1）

課題⑤ 完全にビジョンをなくす選手がいる

→ 技術不足の場合はやむなし（初心者が多い場合など）（3-3-6）

→ しかし上位につながるトーナメントでは相手が不利益を生じるので、促し及び旗の対応で改善を図る。

→ 都道府県上位・ブロック・全国大会では基本的に技術不足は考慮しにくい。

課題⑥ フルコートでのスローイン時にスローインするプレイヤーへのマッチアップについて

→スローインするプレイヤーにマッチアップできる場合、原則として適切なマッチアップを行うこと。(7-1-2)

→意図的に異なるポジションを取っており、かつトラップやインターセプトを計画しているとみなされる場合は旗の対応を行う。

→マッチアップしていることが MC にわかるようにすること。(1-2-1)

課題⑦ アイソレーションオフェンスの際のディフェンスの捉え方

→オフェンスが動かないのでディフェンスも動かず、ゾーン見えるがマッチアップをしている状態

→オフェンス側が引き起こしている事象であると考え。(判定基準)

課題⑧ スクリーン時のスクリーナーディフェンスの捉え方

→スクリーン後のマッチアップの状況を見る必要がある。(1-3-3)

→長身者が制限区域内にとどまり続けるような事象であれば改善を促す。

課題⑨ オフェンスからディフェンスの切り替わりにおけるマッチアップ

課題⑩ 本来マッチアップすべきものが違う

(ガードはガード・ビッグマンはビッグマンというマッチアップ)

→攻防の切り替わり時は必ずしもマッチアップすべき対象になるとは限らない
チームが決める自由度を与えるべき (MC が管理できない)

→ビッグマンを外に出したいからオフェンスのマークマン (シュート力がないものを意図的にマッチアップする) がアウトサイドへ出るがついていけないのはどうか、については MC としてコントロールするものではない。

→”マッチアップが異なるだろう”ということは MC がコントロールできない
ゾーンであると思なさないで異なるマッチアップになっても旗の対象ではない

→ディフェンスのスタートが 1-2-1-1 のような位置取り (エリア) からスタートすることはゾンプレスとみなす。(まえがき)

課題⑪ ディフェンスヘルプローションの捉え方

- ヘルプが起こっている際は、ボールマンに2人集まることが起こる。これをゾーンとは見なさない。
- その後にエリアを守り続けようとするのか、マッチアップに戻ろうとするかで判断する。(第4条ヘルプディフェンス)

課題⑫ フルコートでの最も遠いプレイヤーのマッチアップ位置

裏パスを狙う位置に来ており、トラップから出てくるパスを狙うインターセプターになる

→本来オフボールオフenseプレイヤーへのマッチアップとは

” ボールマンになった時に戻ることができる、得点を防ぐことが出来る位置取りをすること”

(2線のポジショニングでの説明、基準規則では定義されていない)

- U12の場合” 投げられない=ボールが行かない” ので” マークマンをマッチアップしているふりをして”” トラップや裏パスを狙う” プレーを指示する指導者がいる
- 距離を規定することは常に変化する以上、数値を示すことは妥当ではないので行っていないかった。2線がどこまでヘルプに寄って良いのか、と同じ議論と考える。
- オフenseが空いているノーマークを攻めることで解決すべきであるが、それが出来ないレベルの攻防において指導者がそのプレーを狙わせることに問題がある。**
(3-3-6・まえがき・5-2-7)
- ” ボールマンになった時に戻ることができる、得点を防ぐことができる位置取りをすること” に違反しているという判断

トラップを仕掛け続けることが U12 の攻防であるべき姿がどうかは指導者の考え方に関わる。

指導者が倫理観を持ってコーチングすることが大切で、あまりにコントロールするルール作りで縛ることはマンツーマン推進の方向に逆行する。

『子どもたちがバスケットボールを楽しめる環境作り』を再考し、
『バスケットボール本来の在り方に近づけること』を目指したい。